

# 提言

## 新元号になる前に国会改革を。 出でよ、平成のニューリーダー。

本誌主幹 大中吉一

本誌が創刊したのは岸内閣の最期の時だった。爾来53年間にわたり歴代内閣を見てきたが、現安倍内閣の混乱ぶりと国民からの不信ぶりには、安倍首相の祖父である岸信介氏、父方の祖父である安倍寛氏も、そして吉田茂氏もさぞや嘆いていらっしやるだろうと思う。

2018年は明治維新から150年、いまこそ新しい時代に向けたニューリーダーが切望される時なのだ。しかしながらそうした時代背景の中にも関わらず、自由民主党の幹部からは総裁選はないというような発言もある。

総裁の任期が3年に1度と決められているのは総理の成績評価をその度に行うということにほかならないのではないだろうか。

そう考えれば、果たして安倍首相はどのような成果を上げてきたといえるのだろうか。拉致問題、アベノミクスの名のもとに押し切った形の「働き方改革」「一億総活躍社会」どれひとつとしてきちんとした成果になっていないのは一目瞭然である。さらに言えば、デフレ克服のための黒田体制も挫折したままだ。

それでもまた新しいスローガンを掲げ、国民の目をごまかそうというのだろうか。

国会を見れば、せっかく導入した党首討論も去年は安倍政権の強行で行われず、今年も野党の分裂で1人7分の持ち時間が空費されたのはご承知のとおりである。これではなんの解決にもならない。それこそ持ち時間を英国並みに増やしてでも徹底的に討論されるべきではないだろうか。

与党は国民に政策を訴え、野党は健全な野党としてアベノミクスの不備を突く。そうすることで議論が活性化し、その姿を国民に見せることが大切なのではないだろうか。

それにも拘らず、十分な議論もないままに国会は延長され、あまつさえその延長期間中に首相は1週間も外遊に出かけようとする有様である。

きちんと予算委員会をやり、アベノミクスの完成と自分の政策を論じ合うこと、そしてそれを国民に見せることこそ重要なのだ。もちろん拉致問題もどこまでやるつもりなのか、どこまで金正恩と直接会っての話し合いができるのかを披瀝することこそ、総理大臣の仕事なのではないだろうか。

自民党幹部に申し上げたい。ここは深く反省し、9月の総裁選にきちんと候補を立て、安倍政権がやってきた5年間のチェックをしっかりと行った上で、それをきちんと包み隠さず国民に見せ、その上で国民の判断を仰ぐことこそ重要なのではないだろうか。

もちろん野党はきちんと責任野党としての立場を明確にし、政治が数の論理であるならば、きちんと理念・政策を一致させ、野党としての責任を果たしていただきたいと切に願う。

アベノミクスの審議は予算委員会で、森友・加計・スパコンの各問題は特別委員会を作ってそこで審議を尽くす、これこそが国民の望む姿ではないだろうか。

ロッキード、昭電疑獄、リクルートなど醜聞はあったが、それぞれ曲がりなりにも責任を取った方もあり、一応の解決を見ている。過去にこれほど国民に不信を抱かせた政権もないのだ。衆参両院の議員も心して総裁戦に臨み、新元号に向け、新たな国会のあるべき姿とニューリーダーを示していただきたいと願う。